●地域説明会　5会場終了

今回は源氏物語に登場する花を中心に本会のみの自力で組上げ設置した中聖牛取組、そして9月から11月まで毎週土・日に開催してきた竹蛇籠製作講習会の取組等を展示しました。初日の四季彩館は館長や職員の皆さんが快く対応していただき、予想していたよりも沢山参観していただきました。宇治の生涯学習センターでは、センターでの催し中止を知らずお越しになった来館者の皆さんに呼び掛けてご覧になっていただきました。次に11日の京田辺市中部住民センターでは今年唯一の和室での展示でしたが、源氏物語に登場してくる花の写真が障子の桟と、うまくマッチして素晴らしい展示風景がかもしだされました。4日目の木津のいずみホールは展示会場にあった広さで、お話をいただいた戸田裕子さんの「ネパールの暮らしのお話」が初めてお聞きするものでした。最終回の20日城陽市の文化パルクには、脳梗塞で長期のリハビリでご苦労された深田三郎理事長が出席されました。お話は京都市の雲ケ畑地域の足谷で貴重な自然を守っている西野護さんからベニバナシャクヤクの保全活動と公共交通の廃止を乗り越えて民間バスの実現に頑張られた経験のお話をお聞きしました。会誌50号にお話に要点をお伝えできればと思います。ご期待ください。

●交響プロジェクト報告書作成進む

春4月に　１里山をフィールドにいた自然活動　２親子で遊ぼう学ぼう魚とり　３中聖牛の取組　4竹蛇籠製作講習会　５カヌー体験講習会　６地域説明会　７木津川の草花の記録の７項目を助成対象に申請をいたしました。総額300万円になる事業資金規模でありました。いずれのイベントもコロナウイルスへの対応で随分苦労しましたが無事に実施できました。現在7つのイベントについて実績をまとめています。振り返りますと大変困難な条件の下でこれだけの成果を出せるほどよく多方面にわたる取組をやったものだと思います。これだけではなく毎週火曜土曜には里山農園作業日の実施、月2回の日曜日には団地朝市での出店、など多くの作業を伴う木津川調査観察、草刈りなどものすごい取組を実施してきたものだと思います。多くの会員社員のご協力があって成し遂げられたのだと深く感謝いたします。

●木津川希少種植生調査管理業務の報告書整う

この作業は、本会結成時に木津川堤防に咲いていたきれいな花や貴重な花を一方的に刈り取るのではなく、花の特徴を理解して刈る時期の調整をしてほしいとの申し入れを行ったことから始まりました。紆余曲折を乗り越えて、木津川に存在する絶滅希少種を絶滅させる方向ではなく、長年保護観察を続け、河川協力団体として認定いただき、植生保護等の業務として受注できることができるようになった制度です。今39ヵ所と追加1か所の合計40か所全長約30㎞に及ぶ長い範囲を管理しています。毎月の生育調査と春夏秋の除草作業と大変な作業を行っています。もちろん無料ではなく有料ですが一部を里山の会の運営費用に利用させていただいています。本会活動継続のために数少ない貴重な財源でもありますので年度期末には年間事業結果を正しく報告書として提出しなくてはなりません。至極当然の作業なのです。体制や人材が不十分な面も多々ありまして年度末の作業は大変であります。

●小林慧人「博士論文」里山の会に寄贈

彼が同志社大学生として里山の会を訪れてきてくれたのは里山の会の農園での生き物調査、特にオオムラサキに関する取り組みが本格的になる頃でした。またカスミサンショウウオにも重点がかかってくる時期でした。顧問の光田重幸先生とは木津川の植物草花についてまとめるころでもありました。山城の竹やぶに関心をもち、木津川の竹にも興味が沸き、随分と調査に歩かれ現地から多くを学び、同志社大学を卒業後は京都大学院に進み本格的に竹について研究されました。もちろん里山の会でも北野さんや福井さんと力を合わせ魚とりの実施と充実のために大変貢献をしてくれました。こうした活動を大学院になってからも続けてくれました。その一方で海外にも出かけ研究にも精を出し、今日博士論文をまとめられ、提出され、里山の会にご寄贈いただきました。里山の会として25年の活動

を数えますが、博士号を得るための支援や活動を行ってきたことは初めてです。非常にうれしいことですし誇りにすべきことだと思います。

●井手町イタセンパラの復興対策会議　開かれる　3 月 13 日（土）

予期せぬコロナウイルスがパンデミックスとなり屋外での活動も予定通り展開できなりましたが、国交省淀川河川事務所が木津川におけるワンドについて周辺に大きくなった樹木の撤廃を実行し、条件整備などを行ってくれました。木津川のワンドで密漁対策がまず先決と経験者から伺ってきました。それの原因の一つに見通しが悪いという課題でした。今回木津川出張所長に依頼をしてワンド周辺の樹木をきれいに伐採していただき、大きな課題が一つ取りのぞかれました。次の課題が地域の人々による保護運動をする団体や組織が必要になってきています。それで下記の通りの日程で関心ある皆さんにご集合いただきこの運動の始まりをお願いしようと企画しました。どなたでも木津川でイタセンパラに復元に関心をお持ちの皆さんのご参加をお願いします。

13:30 開会挨拶　自己紹介　経過報告　成体の映像　質疑応答　世話役の選出ができれば（できれば現地見学も？）16 時　　場所：井手町上井手　京都府勤労者福祉センター会議室

●親子で遊ぼう学ぼう魚とり　次年度も 8 月に 4 回実施の予定

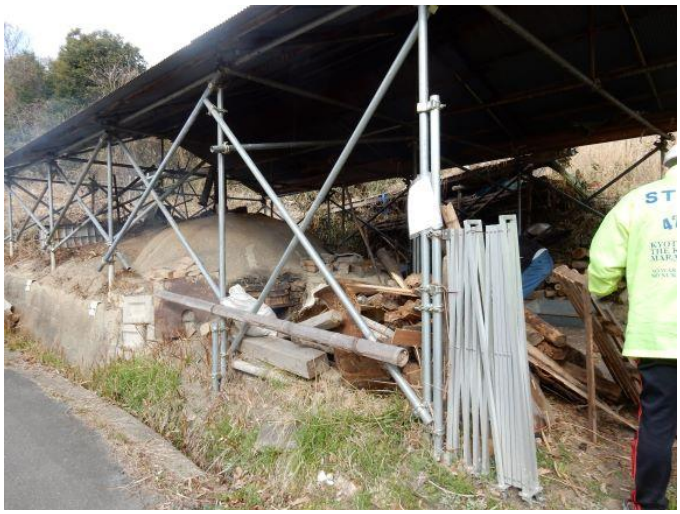
●京都府子どもの水辺を 8 月 9 月に実施の意向

●今年の里山展（3 月 2 日～7 日）実施内容決まる

3 月 2 日（火）から今年も里山展を開催し活動を紹介します。中心は「源氏物語」に登場してくる花たちとして 50 枚余の写真展です。素晴らしい内容ですのでこのチャンスにご覧いただきたい傑作です。また今年度から開始したイタセンパラの復活です。これもなかなかの見ものです。次に京都新聞で 2 回も連続して紹介された中聖牛の展示です。これまでは静岡県からご指導をいただいてきましたが、今年は里山の会員が自力で製作した力作です。一度はご覧いただきたい傑作品です。

●炭焼き着火　23 日　午前 9 時 30 分に行いました

ジャガイモ植え付けなども行い、お子さんも含めて約 30 人が参加され、久しぶりに賑やかな一日になりました。これまでの経験から空気の遮断は 5 日後にしたいと考えています。打田に行かれたら旧道を進んでいただきますと、炭焼きの煙がたなびいているのが目に付くと思います。

●竹蛇籠・中聖牛を取り組んで　　シリーズ２回目

　私の子どものころ夏には木津川で水泳場が開設され臨時の駅が設けられていた。郡山の金魚が持ち込まれ金魚すくいが人気を呼んでいた。広く浅い砂浜が広がっていたので老若男女が一斉に飛び出していたのを覚えている。川の北側（右岸）の竹藪付近は人の背丈以上の水量があり深い場所で危険個所であった。川幅は広くて中ほどの近鉄鉄橋の橋台基礎からはよく飛び込んだものである。川には変化があっていろいろ学び、川から遊びを通じて学習を自然と身に着けたものである。また橋脚を保護する杭がありそこでは魚がツンツンと体に当たってきた。ところがいまは飛び込んでいた橋台ははるかに高くなっている。すなわち河床が低下なっているので、とても飛び込んでいたなどと想像ができなくなっている。3mは下がっていると思われ、近鉄鉄橋を保護するために矢板が打ち込まれ石積みの堰堤が作られている。水泳場は催しや食堂などのテントが立てられ、それらの場所は今ではグランドに姿を変え、金魚すくいを行っていた浅瀬は大きなワンドに姿を変えているのである。川の中ほどにはとても巨大は砂州の島が形成され、生き物の生息場にされているようである。かろうじて木津川の原型がこの堰堤によって上流部の変化を食い止め木津川を代表する姿をとどめているのである。